

環境調査結果のお知らせ

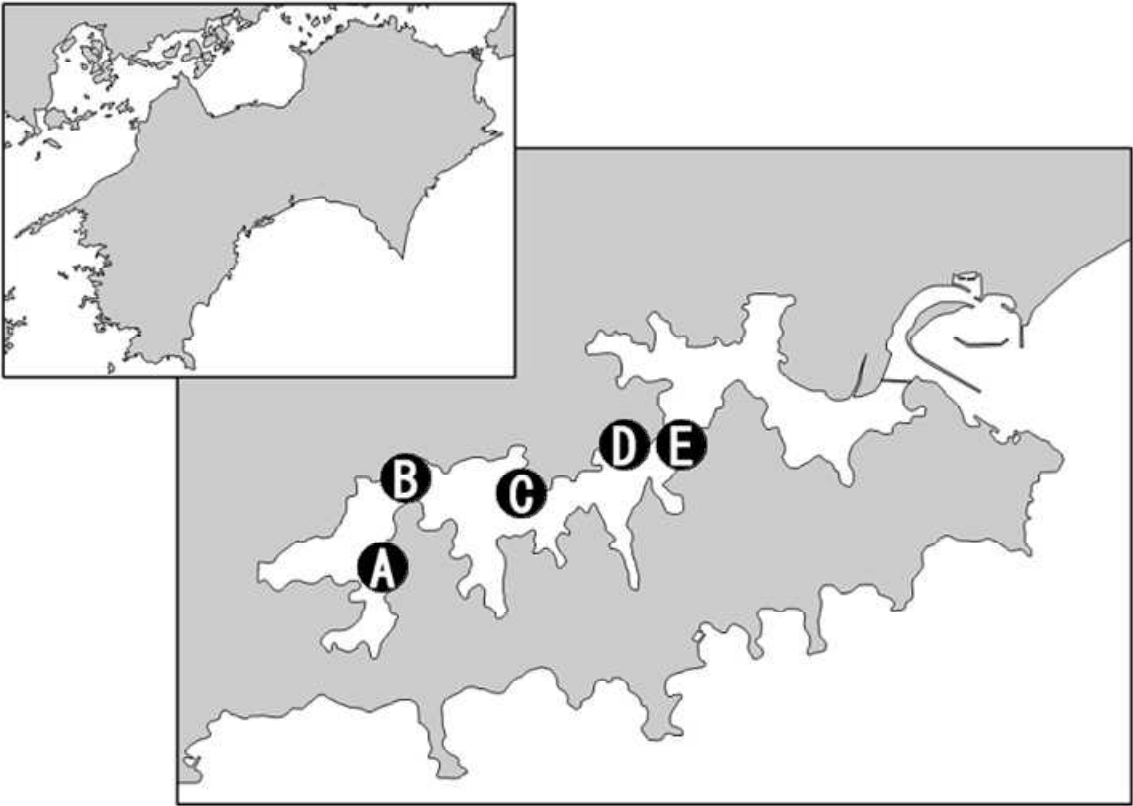
令和7年5月26日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なケラチウム属が最高で660 cells/mL確認されました。ケラチウム属は100 cells/mL以上になると、養殖魚の餌食い悪化が懸念されます。また、光松及び大鹿漁場では底層が貧酸素状態になっていますので注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ケラチウム	珪藻
	(m)	(℃)		(mg/L)	属	
A 鳴無 (-) 【09:19】	0	19.7	8.5	9.8	0	-
	2	23.8	25.2	8.7	660	-
	5	24.2	30.5	7.7	12	-
	底層 8	23.2	32.1	5.8	0	-
B 中学校前 (-) 【09:25】	0	19.7	10.2	9.7	0	0
	2	23.5	26.8	8.5	520	10
	5	23.0	30.1	7.1	140	0
	10	23.0	32.1	6.2	0	0
	底層 11	22.4	32.3	5.1	0	0
C 目ノクソ (-) 【09:33】	0	19.8	13.9	9.6	0	-
	2	22.5	26.4	7.6	54	-
	5	22.0	29.9	6.5	6	-
	10	22.2	32.1	6.4	0	-
	底層 14	21.9	32.5	4.9	0	-
D 光松 (-) 【09:40】	0	20.8	13.1	10.5	0	0
	2	21.9	26.6	7.4	10	10
	5	21.5	29.7	6.3	2	80
	10	21.7	32.1	5.8	0	0
	底層 16	20.6	32.8	2.3	0	0
E 大鹿 (-) 【09:49】	0	20.7	13.0	10.1	0	-
	2	21.8	27.7	7.4	17	-
	5	21.5	30.3	6.2	0	-
	10	21.6	32.3	5.6	0	-
	底層 15.5	20.6	32.8	2.3	0	-



- A: 鳴無
B: 中学校前
C: 目ノクソ
D: 光松
E: 大鹿

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチャオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Ceratium</i> spp. (ケラチウム属)	魚類の餌食い悪化	100 cells/mL	—			
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度
※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度
※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。